

JHFREPORT



「パラグライディング日本選手権2023 in 紀の川」より 撮影：濱田 革（13-14ページに報告を掲載）

JHF理事・監事立候補のご案内

JHF役員選任実行委員会 委員長 鈴木 由路

去る3月28日（火）、今年の役員選任が公示されました。今回は2023年度から2024年度にかけてJHFを運営する理事・監事を選出します。フライヤー会員の皆さん全員に立候補する権利があります。

自由に空を飛ぶ権利を守るJHFの取り組みにご賛同いただける方の立候補をお願いします。立候補にあたっては、住民票所在地あるいは活動地域のJHF

正会員（都道府県連盟）による推薦が必要です。

今までの理事会は、主にJHF事務局に集まっての開催が原則でしたが、コロナ禍も契機となり、zoomなどを利用した遠隔会議手段でも出席することが可能になりました。この結果、理事会活動に遠方から、あるいは仕事の合間を利用した出席もし易くなっています。

フライヤー会員であれば、どなたも

立候補ができます。首都圏以外に在住の方・幅広い年齢の方・女性・様々な社会経験をお持ちの方など、多様な方にJHFの運営に関わっていただきたいと考えています。

立候補手続きはメール等の電磁的手段により行うことにし、ペーパーレス化を図っています。応募の締め切りは**5月8日（月）**です。

（選任スケジュールはP4を参照）

スポーツくじ



JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。

2023年度JHF事業計画と予算

事業方針

2020年に始まった新型コロナウイルス感染症も落ち着きマスクを着用した生活も終わりを告げようとしています。JHFでは、3年間も続いた自粛生活に飽きた人や、自粛生活に慣れきってしまった人たちに対して、積極的にスカイスポーツの魅力を売り込んで愛好者を増やしていきたいと思っています。そのため、JHFやフライヤーによるSNSの積極的活用を推進し、一般の人々がハンググライダーやパラグライダーを体験したり、その競技を観戦する機会を増やすなどの普及活動に取り組んでいきます。

一方、安全は普及の前提です。今後教本作成や安全セミナーなどを通じて事故の防止を図っていきます。

また、フライヤー自身のケガを保障するJHF総合保障制度の加入者の拡大を図ります。

事業の具体的な内容

HG：ハンググライディング

PG：パラグライディング

MPG：モーターパラグライディング

XC：クロスカントリー

【理事会・事務局の事業】

- 1 全国のフライヤーの実態把握と安全対策
- 2 愛好者増加の推進
- 3 ハング・パラグライディングのイメージ向上・宣伝告知
- 4 委員会の主体的活動のバックアップ
- 5 ボランティア制度の活用促進
- 6 フライト中の情報交換を可能にする無線機の普及
- 7 フライヤーのための損害保険の告知と普及
- 8 スクールのための施設賠償・損害保険の告知と普及
- 9 第三者賠償責任保険の付保継続
- 10 JHF白書の編纂
- 11 寄付・助成金獲得への取り組み
- 12 オンライン手続き、キャッシュレス決済の研究
- 13 その他定款の定める管轄事項

【常設委員会・事務局（広報出版）の事業】

●安全性委員会

- 1 事故情報の収集と管理（注意喚起など実施）
- 2 事故調査活動
- 3 セーフティーノーツの管理
- 4 委員会ホームページの管理
- 5 JHFレポートへの安全に関する記事の掲載
- 6 チェック5タグの普及推進（安全注意喚起）
- 7 機体登録制度の推進（EN情報との連携及びホームページ掲載）
- 8 レスキューパラシュートリパック認定証テキストの改定
- 9 PGパイロット安全セミナーのテキスト改訂
- 10 MPGパイロット安全セミナーのテキスト改訂を検討

●教員・スクール事業委員会

- 1 PG・HG・MPGパイロット安全セミナーの開催
- 2 教員実技検定会の開催
- 3 教員学科集合検定会の開催
- 4 上級タンデム技能証検定会の開催
- 5 教員助教員更新講習会の開催
- 6 レスキューパラシュートリパック認定証更新講習会の開催
- 7 レスキューパラシュートリパック認定証検定会の開催
- 8 スクール登録
- 9 タンデム教本の作成（上級タンデム教本と分冊にする）
- 10 教員養成課程の制定
- 11 教員の資質向上の支援（教員志望者への学習機会の提供及び、現任教員・助教員の学び直しの機会提供）

●HG競技委員会

- 1 ルールブックの改定
- 2 HGシリーズの運営
- 3 フライトコンテストの運営
- 4 委員会ホームページの運営
- 5 クラスI日本選手権の開催（2023年3月17日～21日 茨城・板敷山）
- 6 クラスV日本選手権の開催（2023年3月30日～4月2日 茨城・足尾）
- 7 クラスI & V世界選手権（北マケ

ドニア、クルシェボ 2023年8月6日～19日）に選手派遣（クラスI：6名、クラスV：5名）

- 8 各種大会の公認および後援申請に対する審議および承認
- 9 SNSを活用したタイムリーな情報発信
- 10 日本ハンググライディング競技者育成プログラムの企画・運営
 - 1) ハングシリーズ大会の開催（2023年11月）
 - 2) スポーツクラス大会の開催（2023年8月）
 - 3) ウェブセミナーの開催（2023年9月、10月）

●PG競技委員会

- 1 ルールブックの改定
- 2 ウェブ事務局／ホームページ管理
- 3 Jリーグ、J2リーグ、XCリーグ、AJリーグ管理
- 4 J2リーグおよびアキュラシーリーグの活性化・支援
- 5 XC日本選手権の開催（2023年3月17日～21日 和歌山県・紀の川フライトパーク）
- 6 アキュラシー日本選手権の開催
開催地・時期未定
- 7 第18回パラグライディング世界選手権（フランス）2023年5月20日～6月3日に選手派遣（男子4名+女子1名、計5名）
- 8 第12回パラグライディングアキュラシー世界選手権（ブルガリア）2023年10月10日～28日に選手派遣（7名）

●制度委員会

- 1 JHFにかかわる制度の定款、規約、規程、規則などの文書管理
 - 1) 理事会諮問事項への答申等
技能証規程改正案作成と理事会
上程
 - 2) JHFホームページ上の総覧整備
（規程改正およびFAI部分）
<https://jhfh.hangpara.or.jp/office/office.html>
- 2 各種制度導入および改正について
他委員会および事務局との連携

●補助動力委員会

- 1 動画制作・委員会ホームページ編集
- 2 テキスト改訂版制作

●ハング・パラ振興委員会

- 1 今飛んでいる人が飛び続けられる環境作りの検討
 - 1) フライヤーズボイスの定期更新体制の運用と継続的見直し
 →事務局との連携強化による定期更新体制検討、JHFレポートとの連携
- 2) 飛ぶのを止めてしまった方の状況分析
- 3) 学生が卒業に伴いやめてしまう問題の分析と対応策検討（学連と連携）
- 4) 家族向けパンフレット「ご家族の皆様へ（仮称）」更新
- 5) JHFレポートの活用検討（フライヤーからの投稿記事など）
- 6) SNS（Facebook等）を活用した情報発信の検討
- 7) Twitter、Instagramを利用した「笑顔の写真」「楽しい写真」の募集

- 8) Sports NaviとPR TIMESへの積極的投稿
ハングシリーズ、フライトコンテスト、J、J2、アキュラシーリーグ、XCリーグ
- 9) 一般の方がハング・パラ大会を観戦できる仕組みの検討
大会会場での観戦、ウェブ観戦、ライブトラック・ライブカメラ活用、競技を説明するパンフ等の作成→2023年検討・試行

- 2 体験会等イベントへの協力
「新しい生活様式」におけるイベントの模索
- 3 外部組織との連携
VR体験に関する大学研究室との協力体制維持
- 4 JHFレポート企画立案への協力

●役員選任実行委員会

- 1 2023年通常総会における役員選任の実施
- 2 役員選任規約の改定検討

●事務局（広報出版活動）

- 1 JHFウェブサイトの運営（スクール紹介サイトを含む）

- 2 JHFレポートの発行
- 3 関連媒体への情報提供（ハング・パラグライディング関連雑誌に情報を提供）
- 4 一般媒体などへの情報提供（ハング・パラグライディングの紹介、イベントやエリアの紹介など）
- 5 スクールなどへの情報提供
- 6 日本のHG・PGの歴史編纂事業
- 7 スクール・エリア登録の推進
- 8 ITシステムの更新および効率化

【その他の事業】

上記のほか、この法人の目的達成に必要な下記の事業を行う

- 1 技術に関する事業
- 2 教育に関する事業
- 3 安全に関する事業
- 4 競技に関する事業
- 5 その他普及啓蒙に関する事業

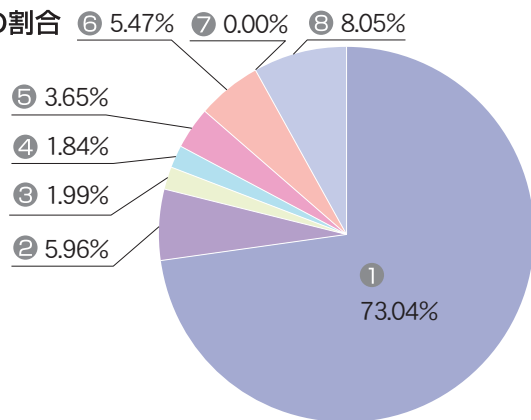
予算

JHFの活動を支えているのは、主に会員の皆さんの会費や各種申請料などです。これらの「収入」がどのような配分で今年度の事業に活かされるのか、下のグラフでご覧ください。

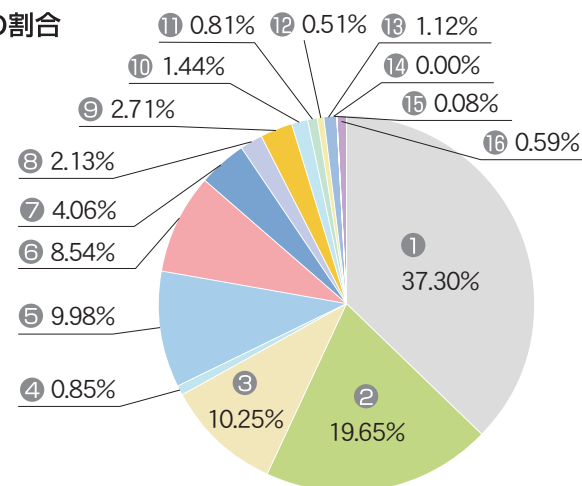
収 入 （単位:円）	
① 会費等	40,030,000
② 技能証の発行に基づく収入	3,266,000
③ 競技に関する収入	1,090,000
④ 教本等の頒布に伴う収入	1,010,000
⑤ 検定会参加費	2,000,000
⑥ 補助金	3,000,000
⑦ 機体登録費	0
⑧ その他	4,412,500
前期繰越金	
合 計	54,808,500

支 出 （単位:円）	
① 会員サービスのために	22,060,000
② JHFの維持運営のために	11,620,000
③ 都道府県連盟の補助のために	6,060,000
④ 公益事業の推進のために	500,000
⑤ 世界選手権、アジア選手権や競技のために	5,900,000
⑥ 広報・普及活動のために	5,050,000
⑦ 日本選手権や国体デモスポのために	2,400,000
⑧ 競技のために	1,260,000
⑨ よりよい教習環境のために	1,600,000
⑩ 委員会活動のために	850,000
⑪ 補助動力のために	480,000
⑫ 学生の補助のために	300,000
⑬ 事故調査や安全のために	665,000
⑭ 海外との交流のために	0
⑮ 制度のために	50,000
⑯ 総会のために	350,000
合 計	59,145,000

収入の割合



支出の割合



教員検定・集合学科検定会を実施しました

2月19日（日）・20日（月）に2022年度の教員学科検定会を開催。事前にオンライン研修を3回実施し、教員に必要な知識や技術に関する予備講習等を行いました。また、応募の段階でレポートを提出していただき、その内容に応じた個別指導を実施しました。当日は教習実技、学科検定を行いました（飛行実技検定は全国の教員検定員のもとで受検）。

今年も2箇所（和歌山、茨城）に分散し実施。検定会は8名が受検。合格者は、飛行実技検定合格後に教員として活動を開始します。

2023年度教員検定員検定会を実施しました

2022年度までの教員検定員の任期満了を迎え、2023年度からの検定員を認定するために、JHF教員検定員研修検定会を3月2日（木）・3日（金）に静岡県富士宮市にて開催しました。

全国から各都道府県連盟の推薦を受けた23名の候補者に参加いただき、教員・スクール事業委員会が中心となって、2日間の研修・実技検定を行いました。

教員、助教員の方には2023年度からは公益財団法人日本スポーツ協会のReference Bookを読んでいただくこともあり、その中の「コーチング理論」の講義を、日本大学松戸歯学部教養学



橋口泰一先生による「コーチング理論」の講義。



参加者集合。濃密な2日間だった。

（健康スポーツ科学）准教授である橋口泰一氏にお願いしました。

JHF教員検定員制度は、全国各地においてハンググライディング、パラグライディングの健全な発展と安全確保、技能レベルの標準化など、指導的役割を担っていただく方を認定する重要なものです。教員検定員は、教員実技検定、安全セミナーも含め講習会や検定会の講師、事故の調査も行います。検定員は次号でご紹介します。

2023年度定時総会を開催 役員選任を行います

6月13日（火）、東京都内の会場において2023年度定時総会を開催します。報告事項は、2022年度の事業報告ならびに決算報告・監査報告、2023年度の事業計画と収支予算。決議事項は、貸借対照表及び損益計算表（正味財産増減計算書）、JHF役員選任の承認を予定しています。

役員選任のスケジュールは以下のとおりです。

3月28日 選任公示

選任に関する資料を正会員に配付。JHFウェブサイトにも一部掲載しています。

5月8日 立候補締切

役員への立候補を締め切ります。

5月16日 立候補者公示

正会員に立候補者の資料を配付します。JHFウェブサイトにも立候補者のリストを掲載。

6月13日 開票・選任

正会員は郵送で投票を行い、総会の選任議題の場で開票し各立候補者の選任決議を行います。過半数の賛成票を得た立候補者のうち、役員定数内の得票上位者が役員として選任されます。

上級タンデム技能証検定会を各地で開催します

2019年4月より上級タンデム技能証を新設しました。2022年度は、初回取得の有効期限が2023年3月末で切れることもあり継続検定も実施しました。12回（内1回はハンググライダー）開催し延べ149名の方が受検。合格は87名（内継続検定合格81名）でした。

2023年度の上級タンデム検定会は下記のとおりに開催の予定です。

- 5月：九州
- 6月上旬：獅子吼
- 6月中旬：朝霧
- 10月上旬：十分一
- 12月中旬：紀の川
- 12月中旬：朝霧
- 1月中旬：朝霧
- 2月：朝霧

日程が確定した検定からJHFウェブサイト「上級タンデム技能証検定会のご案内」でお知らせしていきます。申込人数が定員数に達しない場合は延期の可能性もあります。

また、このほかの場所・日程でも、受検希望者が10名以上集まれば開催を検討します。受検をご希望の方はJHF事務局にお知らせください。

訃報

2009年から3期にわたってJHF理事を務められた工藤修二氏が、3月5日、亡くなりました。

工藤氏は2009年から2014年までの6年間、理事としてJHF活動に貢献されました。ハンググライディング初期の頃からフライトに情熱を傾け、競技の場でも活躍。後にパラグライディングに出会い、積極的に情報発信をするなど、仲間を増やすことに熱心に向き合っていました。

ご逝去を悼み、心からご冥福をお祈りします。



教員検定員検定会。基本に忠実にショートフライト。



教員検定員はパラシュートのリバックも必須。

PG/HG世界選手権に出場する

日本代表選手が決まりました

●第18回FAIパラグライディング世界選手権（フランス 5月20日～6月3日）

廣川靖晃 成山基義 上山太郎

平木啓子 小林大晃

チームリーダー：長島信一

アシスタント：成山奈緒

●第23回FAIハンググライディングクラス1世界選手権／第9回FAIハンググライディングクラス5世界選手権（北マケドニア 8月6日～19日）

[クラス1]

名草 慧 鈴木由路 鈴木博司

氏家良彦 小高史郎 砂間隆司

チームリーダー：浅井将平

[クラス5]

板垣直樹 山口裕之 岩崎正芳

櫻井大朗 松田隆至

チームリーダー：板垣直樹

選手会長：鈴木由路 板垣直樹

県連だより

■定期総会のお知らせ

静岡県フライヤー連盟

静岡県在住のJHFフライヤー会員の皆さんへ

下記のとおり、2023年度静岡県フライヤー連盟定期総会を開催いたします。静岡県在住のフライヤー会員の方はぜひご出席ください。

○日時：6月15日（木）午後7時～

○場所：ラ・ホール富士

〒417-0052 静岡県富士市中央町2丁目7番11号 TEL：0545-53-4300

○予定議案：

2022年度 活動報告／会計報告

JHF総会の報告

2023年度 活動計画／予算案

出欠のお知らせは、右のQRコードを読み取り、必要事項を入力してご送

信ください。欠席の場合は前日までに委任状のご送信をお願いいたします。委任状を提出せずに欠席される場合は静岡県フライヤー連盟総会において構成員としての権限を辞退したものとさせていただきます。



学連ニュース

今回は昨年度の振り返りと現在行っている活動について報告させていただきます。

まずは昨年度の振り返りです。

新歓の成功から始まり、順調な1年だったと感じます。足尾に関しては、夏頃に新入生初の初飛びがあって以降、3月頭に初飛びした学生を含め、おおよそ10人弱の学生が初飛びすることができました。新入生だけの合宿が行われたり、交流を深めるために旅行したりなど、活動はとても活発的で嬉



昨年度の足尾は10人近い学生が初飛びを叶えた。

しい限りです。大会についても、ハンググライダー・パラグライダーともに幾つか行うことができました。学生最後という人も初の学生大会だったという人も、楽しく充実したものとなったようです。ツアーが行えなかったといったような心残りもありますが、活動状況はコロナ以前の活発的な状態にかなり戻ることができたと思います。サポートしていただいた社会人・インストラクターの方々のご助力のおかげです。本当にありがとうございました。

次に、現在行っている活動についてです。

足尾地域では3月頭から新歓活動を行っています。もちろんまだ数は少ないため、実際に機体を使った体験を行っているわけではありません。Twitterや各大学のホームページから募集をかけて希望者を募り、zoomで新歓や活動の説明会を行っている段階です。それでも何人かの学生が反応して参加し、活動に興味を持ってくれました。体験への参加を希望してくれた学生もいます。今年も去年と同様に、4月半ばには河川敷、4月後半からゴールデンウィークには現地足尾での体験会を予定しております。体験会に参加してくれた人に、「楽しかった」



河川敷体験会。学生フライヤーを増やしていきたい。

「自分もやりたい」と言ってもらえるような体験会となるよう尽力しますのでご協力よろしくお願いいたします。

また全国の学生にとってのそもそもの入り口となるような足尾連合のホームページを作成・公開しました。現段階ではまだ掲載している情報は少ないですが、今後このサイトによって現在活動に参加していない他大学にもアプローチをかけることや、インターネットで検索した際に新規に学生を取り込むことができるのではないかと考えています。

学生のスカイスポーツ人口を増やし、スカイスポーツをさらに盛り上げていきたいと考えております。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。これからも安全管理をきちんと行いながら、空を楽しみましょう。

篠原 旭

春のフライトを安全に楽しむために

JHF安全性委員会 委員長 伊尾木 浩二

パラグライダーの翼が潰れることはよくあります。「最近の翼は潰されにくく、潰れても回復しやすい」と耳にすることもあ​るでしょう。でも、決して、初級機でも安全ということではありません。

翼面荷重の割合で潰れが大きく発生した場合には、急激にスパイラルダイブを起こす場合もあります。アスペクト比にも影響します。また、空域における乱気流の状況次第では、より簡単に潰れ回復も難しくなります。ENのグライダー飛行テストは、湖の上空で

安定した気流で行われており、実際に潰れが発生する状況とは異なります。実際は、場合によってはクラバットも起こすのだということを忘れてはなりません。

1年中いつでも大切なことですが、コンディションが荒れがちな春は特に、以下が重要です。

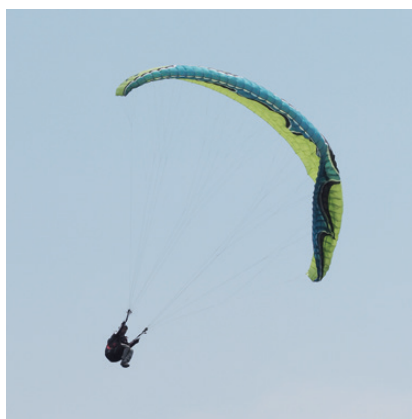
第一に、自分の技量にあった飛行条件で飛ぶこと。そして対地高度をしっかりと確保し、万が一潰されても、落ち着いて回復させることができるよう、日頃から技術向上に努めましょう。

もしも、回復動作をしても難しいと感じた場合、特にスパイラルダイブに陥ろうと回転を始めた場合には、迅速

な判断が求められます。回転に入ると身体にGフォースがかかり、レスキューパラシュートのハンドルを握ることすら困難になります。

どのような状況でも早くて確かな判断でレスキューパラシュートの開傘ができるよう、日頃のイメージトレーニングも重要です。インストラクターから助言をもらい知識を得ることも安全対策の一つとなります。

実際に開傘が必要な状態になったとき、レスキューパラシュートのハンドルを目視できるとは限りません。ハンドルを見なくても握れるよう、シミュレーターなどで繰り返し動作確認をすることが必須です。



潰されても落ち着いて対処できるよう技術の向上を。



レスキューパラシュートのハンドルを目視しなくても握れるようトレーニングを繰り返す。



JHFからフライヤー会員の皆さまへのお願い

事故や安全関連の情報収集にご協力をお願いします

JHFでは、安全性向上のためにアクシデント・インシデントに関する情報を収集してきましたが、さらに簡単に情報の提供をしていただけるよう、JHFウェブサイトの窓口を刷新しました。会員ページトップ、左上の「JHF安全情報収集ページ」をご覧ください。

このページからアクシデント・インシデント情報だけでなく、あなたの安全フライトのための工夫、JHFの取り組みへのご意見なども入力可能になりました（一部準備中）。

事故減少、特に繰り返し発生している事故を防ぐため、ハンググライダー、パラグライダーのアクシデント・インシデント、安全に関するノート等の情報収集にご協力ください。

【あなたがフライヤー、エリア管理者、インストラクター等関係者の場合】

●アクシデント（怪我をしたり第三者に損害を与えた場合）の報告は→**事故報告**

●インシデント（ヒヤリ・ハットなど、損害の無い不時着などアクシデントには至らない場合の報告）は→**インシデントレポート**

●パラグライダーの安全フライトに関するヒント（あなたが実践している安全フライトのための工夫を共有してください）→**安全フライトヒント集**（準備中）

【あなたが一般の方、あるいは報告事項の当事者でない場合】

●事故等目撃情報（あなたが当事者でなく、目撃したアクシデント、インシデントについて報告）は→**事故等目撃**

レポート

【どなたでも】

●JHFの安全なフライトに関する取り組みへのご意見をお寄せください→**入力フォーム**（準備中）

デジタルでもアナログでも情報を読めるパイロットに

クロスカントリーフライトやアウトランディングをしたら、まずは、どこにいるのかGPSで座標を確認したり、『Google Map』を見ることも。最近では『what 3 words』というスマホアプリを利用する人もいます。

便利なツールがいろいろありますが、通信圏外やバッテリー切れの場合は？ アナログな方法で位置情報を得て、さらに仲間には知らせるにはどうするか、日頃から考え備えてください。

2023年CIVL総会レポート

3月上旬、ポルトガルにおいて国際航空連盟（FAI）の国際ハンググライディング・パラグライディング委員会（CIVL）の総会が開催されました。日本を代表するデレゲート（委員）として岡芳樹さんが現地出席、オルタネート（副委員）として牟田園明さんがリモート参加しました。以下はお二人からの報告です。

会期：2023年3月2日～5日

場所：ドン・ヘンリケホテル（ポルトガル、ポルト）

開催スケジュール：

3月2日13:30～18:30 HGXC/PGXC合同委員会、ソフトウェア作業部会

3日09:00～18:30 PGA委員会、HGXC委員会、PGXC委員会

4日09:00～18:30 総会、各選手権立候補地のプレゼンテーション

5日09:00～12:00 総会、各選手権開催地選挙、役員選挙

参加国：

現地出席：アルバニア、オーストリア、ブルガリア、フィンランド、フランス、ハンガリー、イタリア、カザフスタン、北マケドニア、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、セルビア、スロベニア、スペイン、英国、ブラジル、チェコ、ノルウェー、スイス

リモート参加：アルゼンチン、オーストラリア、ベルギー、中華人民共和国、香港、イラン、ラトビア、マレーシア、モンゴル、スウェーデン、タイ、トルコ
委任状：デンマーク→ノルウェー、ドイツ→スイス、スロバキア→チェコ、ベネズエラ→ブラジル

総会での決定事項で特に気になる事項（頭の数字はANNEXの番号）

【A：全種目に関するもの】

■6（CIVL会長レポート）

3月末までにFAIに年会費を払っていない国のSL（スポーティングライセンス）は無効となる

■17（大会における事故に関するレポート）

アクシデントレポートをどのように集めるか、なかなか難しい現実。公認大会においてあった、2件の死亡事故

は共にHG（1つはスペインでの空中衝突、1つは韓国で緊急着陸時にコンクリートの壁に激突）

■23B（公認料の改定）

カテ（カテゴリー）2：現在エントリー費の1.5倍→2倍に、カテ1：現在競技日数×競技パイロット数に対して4.5ユーロ→6.75ユーロに。施行は2024年に開催される大会から。

■23G

S7（セクション7）共通の項目7を、パイロットおよびチームリーダーに必要な情報の伝達方法のプライマリーとして、メッセージプラットフォーム（テレグラム、ワッツアップなど）を利用する。このようなグループを大会開始1週間前までに設立することとなった。

■23H（スポーティングライセンスを保持していない選手の扱いに関する提案）

CIVLはFAIルールを尊重する必要があるが、コントロールするのはNACの責任であるとして、以下の文言を追加することとなった。

*カテ1およびカテ2イベントの主催者がCIVLEMSでイベントを登録することは必須である。

*カテ1およびカテ2イベントに参加するパイロットはCIVLEMSに登録することは必須である。

*問題が生じた場合、FAIスポーティングライセンスデータベースにある情報のみが考慮され、NACが発行した物理的または仮想FAIスポーティングライセンスは考慮されない。

*FAIスポーティングライセンスデータベースに入力された情報（名前、規律、有効性の日付など）が正しいことを確認するのはパイロットの責任である。

*CIVLが受け取った結果は正しいとみなされ、すべてのパイロットはそれに応じてランク付けされる。

*NACは、CIVLのウェブサイトで公開されたすべての結果とランキングをチェックし、特にFAIスポーティングライセンスがないパイロットを考慮して調整を求めることができる。

*CIVLウェブサイトで公開されているすべての結果とランキングは、大会の最終日から3か月経過した後、最

終とみなされる。

■23I

例外的な状況において、CIVL理事会は、公認されていない大会やスポーティングライセンスを所持していない選手にWPRSポイントを与える権利を留保することは承認された。

■23J

カテ2公認に関して、公認管理費の最低を70€に改定とする。また、払い戻しの場合、管理費は返金されない。との文言を削除する（現状では、一度入金された公認料は払い戻しするのではなく、今後の大会の公認料としてクレジットとして残されているため）。

■23O

カテ1大会のテストイベント（本戦の1年前に開催される）が他のイベントとバッティングしないように十分な余裕をもってカテ2大会としてFAIカレンダーに掲載されるように公認申請をするとの文言をS7共通の2.4.5に追加することとなった。

■31B

昨年ジュニアクラスを認めることとしたので、記録飛行にもジュニアクラスを含めることとなった。

■33M

ベルギーからの提案：S7Eの2.3（参加選手の質）について、現状では大会主催者が出来るだけ多くのWPRSのトップパイロットに参加させたいがために、ランキングの低い（しかし、実力はある）選手を選ばない傾向があるので、これを是正する提案があり、否決されたが理事会へ付託された。

■33N

恐らく、PGワールドカップを念頭に置いていると思われるベルギーからの提案：現在、トップランカーはとりあえずかなり未来の大会に一応参加表明をするが、最後の最後まで実際参加するのかわキャンセルするのかわ意思表示をしない。これはトップランカー以外の選手の参加機会を奪っていることになるので是正する提案があり、否決されたが理事会に付託された。

【B：HGXC・PGXCに関するもの】

■23C

S7共通の4.4.5 高度違反において、

現在はまず気圧高度でチェック。気圧高度に問題があった場合にのみ、第一あるいはバックアップのGNSS高度を考慮する事が出来る。となっている。これを「高度、空域違反として、GNSS高度でチェックし、問題が起きた時には気圧高度（基準点での補正がなされている）も使用できることとする。ただしローカルルールで変更することも可能とする」に変更する。

■23D

S7Aの6.3.2 現在、高度検証において、QNHに基づく気圧高度で空域が定義づけられている場合は、主催者は公式の参照テイクオフ高度をフィートおよびメートルで、またその日の気圧設定QNHを提供しなければならない。となっている。これを「空域はGPSで測定された海拔高度で定義づけ、大会ディレクターは、その日の高度の上限と特別な高度制限（新しいもの）をタスクボードに書き込むこととし、この情報はフィートとメートルで書かれる。また、テイクオフにおける既知のポイントの正確な高度とポイントの位置も、タスクボードに書き込まれることとする。」に変更する。

■23E

S7Aの6.3 制限空域の違反で、現在、侵入禁止空域から外側100メートル以内に入るとタスク結果にその旨リストアップされる（ペナルティ無し）。水平・垂直共に、禁止空域内に30メートル以上侵入するとそのタスクゼロ。垂直方向では境界外側XXメートルからゼロメートルまでは直線的にゼロ%からYY%のペナルティ。境界内側ゼロメートルから30メートルまでは直線的にYY%から100%のペナルティとする。XX、YYの数値はローカルルールに明記される。となっている。これを「大会主催者は、大会におけるすべての制限空域を含む空域ファイルを提供する必要があり、これらの禁止された空域には、垂直方向および水平方向に少なくとも100メートルのバッファーを含める必要がある。そして、大会で定義された空域の垂直方向または水平方向において、禁止空域内に0メートルから100メートルに侵入した場合は直線的に0から100%のペナルティを科すこととする」に変更する。

■23F（雲中飛行に関する提案）

現在、雲中飛行とは、グライダーま

たはパイロットの任意の部分が、近くにいる監視員またはパイロットの視界から消えることとして定義される。これを「雲中飛行とは、グライダーまたはパイロットの任意の部分が雲中に入っていることとして定義される」に変更。また、現在ある「高度を制御できないほど、強力なサーマル中で活発な雲に近づきすぎるパイロットも、雲中飛行と見なされる場合がある。また、遷移レベルの上まで雲の側面を上昇することは法律に反しているため、これはコンプレインが出された場合に他のパイロットよりも高くなったことの許容できる言い訳とはならない。」は削除。また現在、パイロットが不注意で雲に吸い込まれた場合、そのパイロットには、アドバンテージが得られなかったことを示す責任がある。これを「スコアラーまたはMDがパイロットが雲中飛行したのではないかと疑っている場合、そうでないという証拠を提供するのはパイロットの責任である」に変更。

■23N

S7Aの2.2.6 カテ1大会での参加要件の例外規定に関する文言にある「免除を受けた後、パイロットがカテ1のイベントに参加した場合、そのパイロットは、通常の資格基準を満たさない限り、さらにカテ1のイベントの資格を得ることはできない。」つまり、例外は一生で1回のみ認められる文言を削除することとなった。

■31A

現行のS7Dに記録飛行挑戦に関して、一つの記録のみ宣言できるようになっているが、これはスポーティングコード総則の7.7に抵触するので、二つ以上の記録の宣言が出来るように文言を修正することとなった。

■33G

ブルガリアからの提案：現在ターンポイントは中心点と半径からなる円で規定されている。これだと最適ルートは自ずと絞られてしまい、ルートのオプションが限られる。その不都合を解消するために、ターンポイントとして直線（中心点とそこから決められた両方向へ決められた距離延びる線）を導入するという提案は、ただし書きとして2025年5月から施行することとして承認された。

【C：HGXCに関するもの】

■33A

スペインからの提案：HGクラス1選手権においてクラス5とクラス1女子を含め、参加枠も125人から140人に増やす。またそうなることをもって2025年の世界選手権の立候補をするという提案は 理事会で適切に協議することとなった。

【D：PGIに関するもの】

■23K

PGのサブクラスとして世界XCオンラインコンテストで使用されているもの（一部修正）を踏襲することとする。
オープン：すべてのグライダー
シリアル：すべてのEN/LTF認証機
スポーツ：EN-C/LTF2以下
スタンダード：EN-B/LTF1-2以下

■23Q

最近流行っているハイクアンドフライの大会ルールを標準化し、カテ1およびカテ2大会として開催できるようにするため、作業部会長としてトーマス・セネック（フランス）を任命し作業部会を立ち上げることとなった。

【E：PGXCに関するもの】

■25

PG委員会からの提案：認証取得最大飛行重量が95キロ以下のグライダーをサブクラス「Reynolds」として2024年開催の大陸選手権で試行するという提案は、Reynolds=>Light Weightに変えて決を採ったが、僅差で非承認。

■33B

スペインからの提案：PGXC世界選手権並びにヨーロッパ選手権における参加資格条件にある、WPRSランキング500位以上では、国によってはチームを形成することが出来なかったり、女子選手を送る事が出来なかったりするため700位以上に変更するという提案は承認された。

■33D

アルゼンチンからの提案：パンアメリカン選手権での3人の陪審員と1人のスチュワードの計4人の費用を負担するのは大変なので、リモート陪審とする提案は、理事会が適切に判断することとなった。

■33E

ブルガリアからの提案：PGXCに関

して、S7Fの10ポイントの配分のPG関連では、現在リーディングのウエイト（LW）は0.162（1000点タスクで最高162点）に固定されている。一方タイムウエイト（TW）はゴール率（GR）により変化する。ゴール率が小さくなると、タイムウエイトが小さくなる。ゴール率がある値より小さくなるとタイムウエイトがリーディングウエイトより小さくなり、スピードが速く（トップゴールしたとし）てもリーディングしていないとリーディングしている選手がランキングで上位になる可能性があるため、これを是正するために以前のGAPシステムに戻すという提案は承認された。

■33F

ブルガリアからの提案：PGXCに関して、タスク決定に際してエリアとコンディションによる複雑さから、競技委員長はマルチスタートを採用する傾向にある。そうすると、早くスタートするよりコース上でのスピードが重要となり、リーディングポイントの重要性が減少する。現状ではそれに対して調節ができない（リーディング・タイム比率（LTR）がデフォルトの26％に固定されている）ので、タスクによって競技委員長がLTRを10～45％（この数値の妥当性を判断するためにカテ2では0～50％の範囲内で試行できることを推奨）の範囲内で決定できるようにするという提案は承認された。

【F：PGAに関するもの】

■23L

S7Cに異議申し立てとしてコンプレインとプロテストがあったが、どちらも書面によるものであった。そこで、一つ手前の口頭での異議申し立てとしてオブジェクションを追加することとなった。

■33L

スロベニアからのS7C（PGA）に関する提案：

1.1.4.4（ターゲット） 現在、ターゲットは平らで実質的に水平な場所に置かなければならないとなっている文言を削除。

4.4.2（ターゲットの構造） 現在、湿度の高い天候や霜や氷がある場合でも、ターゲットは滑りにくい素材でなければならぬとなっている。しかし、後段に、チーフジャッジがターゲット

の表面およびセッティングを承認するとの文言があることから、この文言を削除する。

4.6（風速記録計） 風速はターゲットエリアで視認できなければならないとの文言を追加する。

5.4.2（自動計測装置） カテ1では大会開始時点から新品または工場で再生されたAMDを使用する必要がある、その装置に500回ランディングするとにそのラウンド終了時点で交換する。あるいはその装置に信頼性が無いと判断されたら交換されなければならないとの文言を追加する。

9.3（ジャッジチーム） 現在のターゲットは以前の10メートルではなく2メートルになっているので、ターゲットジャッジも走り回る必要もなく、テクノロジーも進化するので、人数を削減（カテ1とテスト大会では2名減、カテ2では1名減）する。

5.4.4（チームスコア） チャンピオンシップ大会では、最初の6ラウンドのみがチームの最終スコアにカウントされとの文言を追加。

5.4.3（個人スコア）に5.4.3.1（ノックアウト）として、最初の6ラウンドは選手全員がフライトし、そのうちのベスト60人が7、8ラウンドをフライトし、そのうちのベスト40人が9、10ラウンドをフライトし、そのうちのベスト20人が11、12ラウンドをリバーオーダーでフライトする。ネクストラウンドへ進めなかった選手はDNQあるいはDNFとマークされる。カテ2大会ではノックアウトされる選手の人数は調節が可能でローカルルールに明記されとの文言を追加する。

8.1.1にEN認証機のみが飛行を許可されるとなっているのを、LTFおよびCCC認証機も追加する。それに従ってS7Iのガイドラインおよびテンプレートも改定する。

S7Cの適切な項目に、新たに男子1名、女子1名、計2名からなるチームを構成し、成立した全ラウンドの合計で競うことを追加するという提案は承認された。

■33O

チェコからのS7C（PGA）に関する提案：

1.1.4.6（ターゲットエリア）の最後の文言「ターゲット エリアは、AMDから30メートルの最小距離に対して、平

らで実質的に水平である必要がある。」を削除

2.2.1（参加資格）のウインチトーイングに関して、NACライセンスまたはトーレーティング、資格、または経験を明記したレター／FAI認定の牽引競技会の主催者が署名した飛行日誌または証明書／トーイングトレーニングコースの修了証明書を提出することとなっているが、現実には提出されていないので、単に「トーイングの経験があることと改定する。」は承認された。

【G：その他】

■今後の選手権開催地決定

2024年PGAヨーロッパ選手権→アルバニア、Gjirokastra

2024年PGXCパンアメリカン選手権→ブラジル、Andradas-Minas Gerais

2025年PGXC世界選手権→ブラジル、Andradas-Minas Gerais

2025年PGA世界選手権→トルコ、Alanya-Antalya

2025年HGクラス1、クラス5、クラス1女子世界選手権→スペイン、Ager

2025年HGスポーツクラス世界選手権→イタリア、Laveno- Mombello

■37

次回総会の場所に関して韓国から立候補が出ていたが承認された。2025年に関してモンテネグロが関心を示している（ただし、現在モンテネグロにはNACが存在しないため、NACが存在することを条件とする）。

■選挙

理事会からの提案が承認され、無選挙で確定

会長：Bill Hughes（アメリカ合衆国）

第一副会長：Igor Erzen（スロベニア）

副会長：Goran Dimiskovski（北マケドニア）、Zeljko Ovuka（セルビア）、

Jamie Sheldon（アメリカ合衆国）、

Christiano Pereira（ポルトガル）

事務局：Stephane Malbos（フランス）

財務：Andy Cawley（英国）

PGXC委員長：Christiano Pereira（ポルトガル）

PGA委員長：Martin Jovanoski（北マケドニア）、Kamil Konecny（チェコ）

PGACRO委員長：Alexandra Grillmayer（ハンガリー）、Theo de Blic（フランス）

HG委員長：Jamie Sheldon（アメリカ合衆国）

2022年リーグの頂点に立ったパイロットたち

〈続〉2022年の競技を振り返って

パラグライディング (PG) とハンググライディング (HG) の両競技委員会が運営するJHF競技リーグは、1月1日から12月31日までをシーズンとして年間ランキングを決定しています。

コロナ禍の終わりが見えないなど厳しい状況が継続していましたが、2022年シーズンも多くのパイロットたちがその技術と知識、経験を活かして「より遠くへ、より速く、より長く」を競い、それぞれの目標達成に向けて挑戦を続けました。今回は、前号の編集集中に順位が確定していなかった各リーグについて報告します。

HG/PG世界選手権が開催される今年、それぞれのリーグでは熱い競い合いが展開中。あなたもいかがですか。

PG クロスカントリーリーグ

1位 多賀 純一 最長5/6-149.6km
+126.8+103.1+81.9km 計461.40km
2位 前島 聡夫 最長5/6-146.7km
+107.9+98.6+95.1km 計448.22km
3位 小林 敦之 最長4/2-137.7km
+113.0+104.1+71.0km 計425.84km
4位 小林 大晃 最長5/3-150.7km
+99.3+94.4+77.4km 計421.78km
5位 峰岸 正弘 最長4/10-109.0km
+108.0+102.8+56.0km 計375.87km
6位 中川 喜昭 最長4/10-100.0km
+94.2+87.1+86.0km 計367.42km
最長飛行 小林 大晃 5/3-150.7km
岡山県北房→京都府福知山



1位
多賀 純一

去年のXCフライトで印象に残っているのは、仲間と2人で距離を伸ばした149kmのフライトです。

ゴールデンウィークでXCシーズンも終わりかけた頃、100km近く曇り空の中を飛び続けて、二人でパーソナルベスト。ほぼ同じ地点に降りて、帰りの新幹線でも共通の話題で盛り上がり、XCの醍醐味を満喫出来ました。

今年も楽しいXCでPBとリーグ上位を狙えると良いなと思っています。



最長飛行
小林 大晃

2022年のゴールデンウィークは、天気図を見ながら一番よく飛べそうな場所を探して移動し、初の中国地方でのフライトとなりました。

関西方面のコンペティター10名程で岡山県北房エリアからテイクオフし、途中、渋い場面や激しい場面を乗り越えながらサーマルの続く限り飛び続けること7時間。京都府福知山まで150kmを飛び、自己記録を更新することが出来ました。

光栄なことにXCリーグの距離記録でも1位をいただけて、大変嬉しく思います。ありがとうございました。

HG フライトコンテスト

[ストレートディスタンス クラス1]
1位 石坂 繁人 4/2 179.9km
2位 服部 良亮 5/3 163.7km
3位 砂間 隆司 5/3 151.4km
[ストレートディスタンス クラス5]
1位 山本 剛 4/2 195.7km
2位 松田 隆至 4/2 188.4km
3位 宍戸 俊之 4/2 181.8km
[アウトアンドリターン クラス1]
1位 大山 真哉 3/9 54.0km
2位 鈴木 博司 4/9 51.4km
3位 鈴木 皓子 5/5 48.8km
[アウトアンドリターン クラス5]
1位 松田 隆至 3/7 113.6km
2位 山口 裕之 3/7 98.5km
3位 古坂 学俊 7/23 93.7km
[トライアングル クラス1]
1位 鈴木 博司 4/9 86.9km
2位 大山 真哉 5/5 62.2km
3位 田中 元気 10/29 45.1km
[トライアングル クラス5]
1位 山本 剛 7/2 140.5km
2位 佐々木則生 5/5 105.3km
3位 松田 隆至 3/7 99.8km
[デュレーション]
1位 児玉 智雅 6/25 11:02:04
2位 鳥羽 岳太 6/25 10:45:14
3位 山本 剛 7/2 6:34:16



ストレートディスタンス
クラス1 1位
石坂 繁人

いつだって1位は嬉しい！けれど、冷静に考えると少し切ない記録となりました。

「茨城から宮城まで飛ぶ」という目標がありましたが、あと5kmというところで達成ならず。「180km飛ぶ」という目標もありましたが、なんと100mショート！ YouTubeでの「映え」を狙ってランディング直前に進路変更をしたのが敗因でした。そして、これだけ飛んでも日本記録の3/4！？ 私の修業はまだまだ続きそうです…。



ストレートディスタンス
クラス5 1位
山本 剛

多くの人が狙っているこの賞を獲得できる日が来るとは思っていませんでした。

この日は足尾の仲間達が回収車を調整してくれたので、私も珍しく行きっぱなしフライトに挑戦。10km南下したので、先に北上した沢山のハング・パラを追いかけ楽しく飛べました。初めての郡山に感動したり、巨大な福島市にどぎまぎしたり。これがクロカンの醍醐味ですね。

南風が予報より北上し、念願の福島県北端の国見町にランディング。次回は200kmを越え宮城県の空を飛んでみたいです。最後にエリヤスタッフの皆様や多くの仲間達に、この場をお借りしてお礼申し上げます。



アウトアンドリターン
クラス1 1位
大山 真哉

去年はXC 4位、△ 2位、O&R 1位！ということで自分としては出来すぎのシーズンでした。

O&Rや△は、気象条件に合わせたフライトプランを立てることが良い記録につながります。私は飛ばない日でも気象予報をチェックしながら、どん

なフライトができそうか日々妄想を膨らませています。数10km先の景色を見て帰ってくるのって想像するだけでワクワクしませんか！？ みなさんも一緒に空の広さを感じましょ！！



**アウトアンドリターン
クラス5 1位
松田 隆至**

この日は宇都宮管制圏を右回りで帰ってくるというタスクを設定して、何人かで飛んだ時のフライトでした。少し大回りをするコースを飛んだので、一つのフライトでアウトアンドリターン113.6kmとトライアングル99.8kmの二つの記録が作れました。

エリアの維持管理をしていただいている方々、回収サポートをしてくれる皆様のおかげでこのようなフライトができました。お世話になった皆様に感謝申し上げます。



**トライアングル
クラス1 1位
鈴木 博司**

今回記録を達成できた石津エリアは、航空管制圏や地理的な要因でストレートディスタンスの記録を作るのはかなり難しいため、数年前から養老山脈と鈴鹿山脈を使ったトライアングルの記録を狙っていました。過去に何度か左回りでチャレンジしたことがありましたがいずれも失敗。このフライトは難易度が高い鈴鹿山脈の南下を第1レグにする右回りで挑戦し、なんとか

成功しました。まだ可能性はあるので今年は100kmに挑戦したいと思います。



**トライアングル
クラス5 1位
山本 剛**

2年連続での受賞となり、とても嬉しいです。真夏のフライトは前年同様ですが、南風でコース前半のコンバージェンスはできないが、海風進入も無い条件でした。速く飛べない代わりに自己最長の6時間半も飛ぶことができ、前年より20kmも大きな三角を描くことができました。

夏の足尾は朝9時でも上がるし、特に午前中の雲は信頼性が高いです。コースの工夫余地も大きいと思いますので、皆さん挑戦してみてください。アウト&リターンも可能性があると思います。



**デュレーション
クラス1&5 1位
児玉 智雅**

2022年6月25日に、ホームエリアの板敷で11時間のフライトを達成できました。

早朝はリッジではなくウェーブが発生しており、気付いたら高度制限の近くまで上がっていました。ウェーブが終わると条件が渋くなり降りそうな場面もありました。昼過ぎになるとやっとリッジが安定してきて、午後から飛んだ人たちと一緒にひたすら同じ場所

を往復していました。次は日の出から日の入りまで飛べるよう頑張ってみます！

HG シリーズ

[クラス5]

1位	板垣 直樹	茨 城	117.7
2位	古坂 学俊	茨 城	115.2
3位	宍戸 俊之	茨 城	90.2
4位	山口 裕之	東 京	87.7
5位	岩崎 正芳	群 馬	86.2
6位	岡田 伸弘	静 岡	71.6



**1位
板垣 直樹**

2022年のシリーズ戦は足尾・南陽・足尾の3戦が開催された。3大会のみだったが最終戦での足尾最終日以外は全ての競技でゴール者が出て成立し、9タスクで合計距離621km、平均タスク距離約69kmと素晴らしい内容だった。

この結果は、もちろん天候にも恵まれたが、Class Vの性能の賜物だ。

毎回、楽しいレースをし、2戦目の南陽と3戦目の足尾で優勝する事が出来、シリーズ戦で1位を獲得出来たのは光栄だ。

Class Vの競技はまだまだ進化し良いタスクが組まれるだろう。それをClass Iやパラの大会にもフィードバックしていきたい。

● 2022年パラグライディングXCリーグを振り返って

パラグライディング競技委員長 岡 芳樹 ●

2021年に引き続き、2022年も数多くのパイロットが数多くのXCフライトを楽しんだようです。100kmオーバーのフライトが24本。これは2021年の23本とほぼ同数でした。

100kmオーバーのフライトの約90%が足尾からのものです。全フライトの

約60%が足尾からなので、長距離フライトは、やはりクロカンメッカの足尾からのものが多いことになります。なんといっても、コンディションが安定していて、フラットが多くランディングのプレッシャーが無く、飛びやすいのが最大のメリットと言えます。

100kmオーバーのフライトを21本出している足尾が東の横綱だとすれば、100kmオーバーのフライトを3本出している大佐・北房エリアが西の横綱でしょうか。今年も、安全第一に、日本全国でXCフライトを楽しんでいただければと思います。

● 2022年ハンググライディングフライトコンテストを振り返って

ハンググライディング競技委員長 牟田園 明 ●

2022年のフライトコンテストでは、2部門で新記録が生まれた。

クラス5・トライアングル部門で、山本が7月に141kmを達成。長距離フライトは春が定番だが、それ以外の季節でも好記録を狙えることを証明した。

デュレーション部門では、6月に板

敷エリアで児玉が11時間2分、鳥羽が10時間45分を同日のフライトで記録。2019年に鳥羽が記録した9時間58分を大幅に塗り替えた。

その他にも、トライアングル部門・アウトアンドリターン部門で石津、十分一、七曲、足尾、龍門の各エリアで

好記録が生まれた。

十分一エリアで毎年行っているお釜チャレンジの成功など、様々なエリアでフライト空域の開拓が進んでいることが感じられた。

2023年も、全国のエリアからの応募をお待ちしています！

田中元気4度目、櫻井さやか初の日本選手権獲得！

2023年3月17日-21日 茨城県石岡市板敷山フライトエリア 報告：大会実行委員 牟田園 明

3月17日から21日にかけて茨城県板敷山エリアでハンググライディング日本選手権が開催された。

初日と2日目は天候不良により競技キャンセル。

3日目は競技ができ74.4kmの益子ゴールのタスクが組まれた。

板敷周辺やスタートの高峰はコンディションが良く1600～1700m上がり、一斉スタートとなった。しかし高峰より北側は渋く、1100～1200mほどしか上がらない、かつ、途中で降ろすところが少ない厳しいレース展開となったが、見事、牟田園がトップゴールした。この日は後半渋い条件の中、15名もの選手がゴールまでたどり着いた。

4日目は南風好条件の予報の下、日本ハンググライディングシリーズ史上最長の116.7kmの北上タスク（白河

ゴール）が組まれた。

序盤、板敷山周辺の空域が渋く、スタート時間に高峰へ渡ってスタートを待てた選手は少なく、1回目スタート（12:30）、2回目スタート（12:50）に選手がばらける展開となった。

タスク中盤も予報より渋いコンディションが続き、ランディングしてしまう選手が続出するも、雲のないブルーな空域を1500m～1600m程度のサーマルトップで粘り強くフライトを続けられた選手は、終盤ようやく白河の北側の空域で2200mオーバーの積雲ができる空域で折り返し、白河ゴールへ7名の選手がゴールした。

トップゴールの田中はスタートからゴールまでほぼ先頭を飛び切り、1000点満点を獲得した。

最終日は早めにどん曇りになる予報

ということで43.8kmの烏山ゴールのタスクが組まれた。

板敷周辺は渋いコンディションではあったが1000mまでは上がり、続々と板敷を脱出し北上して行った。予報よりも晴れ間が長く続き、板敷を脱出するとコンディションは次第に良くなり高峰以降は1300m～1400m上がり22名もの選手がゴールした。

最終的に総合では田中が連覇、通算四度目の日本選手権者に輝いた。

また、女子部門では櫻井が初めて女子日本選手権者となった。女子部門は人数不足による不成立が続いていたが、今回7名の選手が参加して4年ぶりの成立となった。

[総合]

1位	田中 元気	大阪	2848点
2位	名草 慧	大阪	2439点
3位	鈴木 博司	岐阜	2211点
4位	小高 史郎	神奈川	2196点
5位	伊藤 学生	愛知	2168点
6位	大陽 智仁	茨城	2148点

[女子]

1位	櫻井さやか	栃木	1111点
2位	内田 秀子	茨城	1038点
3位	佐野 容子	和歌山	807点



機体のセットアップを終え、テイクオフを待つ。



渋いコンディションもあったが、最長タスク成立。



女子選手権を獲得、櫻井さやかのテイクオフ。



総合入賞者。田中は2連覇、4度目の表彰台でっぺん。



女子入賞者。女子は4年ぶりに成立。



ほぼ先頭を飛び切り白河にトップゴール、田中元気。



締めくくりの集合写真。競技にも「日常」が戻ってきた。

[U25]

1位 児玉 智雅 千葉 1641点

日本選手権者から

田中 元気

いつも応援ありがとうございます。

春の板敷山といえば歴史もあり、ビックフライトも狙える最高の条件の中での大会であり、毎年楽しみにしている大会です。

今年は日本選手権として開催され、2連覇もかかっていました。3タスクが成立し、特にタスク2では日本でのクラス1のタスクでは最長である116kmのタスクが生まれ、その日にトップゴールで1000点が取れたことは非常に嬉しかったです。最終日は雨予報もある中、天気が好転して最後まで緊張感のあるフライトになり、トップ

のまま大会を終えることが出来たことは、自分のフライトが安定してきている証だと自信を持つことします。

今回の優勝で日本選手権2連覇！令和に入って3回目！非常に嬉しいです！

初めて大会に出たのは2003年でした。その時にトップコンペティターとして活躍されていた方々は、高い壁であり、目標であり憧れでした。自分も先輩方のように、憧れのフライヤーになれるように、まだまだ活躍し続けられるように頑張ります！

櫻井 さやか

日本選手権 in 板敷にて女子優勝し、女子日本選手権者になれたこと、心から嬉しく思います！最終日に失敗してしまい、ドキドキしましたが、なん

とか逃げ切れて勝つことができました。タイトルを取ることができたことは大きな感動で、ハング競技を続けてきて良かった！と思えました。

今年はコロナ対応が緩和されたこともあってか、参加女子が増えました。久しぶりに復帰した選手が「やっぱり大会楽しい！」と言っていて、嬉しく思います。ライバルであり、仲間でもある女子フライヤーたちが多くいることで競技を楽しく続けることができ、感謝しています。

ハンググライダーで空を飛ぶ楽しみのひとつに競技があり、その中でたくさんの素晴らしい出会いや美しい景色を見ることができました。女子日本選手権連覇、の景色はどんな景色でしょうか？ がんばります！！

パラグライディング日本選手権2023 in 紀の川

岩崎拓夫・四方純が実力発揮、見事な結果を残す！

2023年3月17日-21日 和歌山県紀の川フライトパーク 報告: 選手 小林 大晃

毎シーズンJリーグの初戦を飾る紀の川。今年は日本選手権となり5日間の長丁場だが、海外選手10名を含む70名のセレクションを通過した精鋭たちが鎬を削る。

Day 3 Task 1

初日、2日目と悪天候のためキャンセルとなり待ちに待った3日目、絶好の天気予報に100kmタスクも出来るとの声も聞こえるなか、まずは手堅く一本と63kmタスクが発表される。

しかし、天気予報には無い東風が一向に止まず、テイクオフにはフォローが入る。タイミングを見てダミーが出るが、怪しい挙動のなか頑張るもステイ出来ず、2人目のダミーもテイクオフ出来ず、長い長いウエイティングが始まる。

13時過ぎ、ようやくテイクオフ出来る風となり、15時レーススタートの40.6kmのタスクに最終決定。

テイクオフでは、時偶来る難しい風に翻弄される場面もあったが、飛んでしまえば夕方の穏やかなコンディション。タイミングよく強いサーマルを捕まえた15名程が1500mまで上げ、15時のスタートをベストポジションで切る

が、他は300m程低くスタートとなった。高いところを上山、岩崎、隅、橋本らが引っ張るが、一つ目のシリンドラーを最初にとったのは低いところを突っ込む韓国のムンソブだ。

その後も、速さのある日本選手や多くの海外選手勢はハイスピードで駒を進めるが、ここは既に日の傾いた紀の川。東風は山をなめりッジ上昇風も乏しく、先を急いだ多くの選手がボムアウト。そんな中、廣川が沖、山、沖と頻繁に変わる良いラインを常に良いコース取りで先頭を独走する。

時刻は17時手前、夕日の差すゴールへ最初に戻って来たのは廣川だ。続いて序盤に出遅れた小林がファイナルグライドの見切りで挽回し1分30秒遅れでゴール。その後も、山下、岩崎、呉本、橋本と続く。

最終的に、ラストサーマルに上手く乗った11名がゴールを決めた。15時スタートでも40kmタスクが成立するエリア、午後の紀の川と言われるだけのポテンシャルを見せてくれた。一時はどうなる事かと思われたが、無事デイクオリティーも1.0が付き、まずまずの結果だろう。明日からにも期待したい。

Day 4 Task 2

天気予報ではテイクオフレベルで南風3m/s予想。北西向きの龍門テイクオフから出られるか心配されたが、龍門に到着するとややサイドながらもサーマルブローでテイクオフは問題ない。日本選手権の成立が危ぶまれていただけに、ひとまずレースが出来そうな状況を見て選手達の気持ちも上がる。

タスクは、テイクオフ前の沖を東西にジグザグと3往復し橋本ゴール、午後に高層雲が張る予報から37.5km、12時50分スタートの短めのレースが発表される。ビッグシリンドラーが多用され、南からの裏風も強いことから、さまざまな戦略が生まれそうなテクニカルなタスクとなる。

テイクオフすると強烈なサーマルと強い風で、春らしいなかなかハードなコンディションだ。

スタートはいつもの上位陣が中心となり南の山回りコースで駒を進める。対する韓国選手ら数名は最短距離の沖コースを選ぶが、サーマルにヒットする様子はない。風が強すぎてサーマルが立ち上がらないのだろう。

展開が大きく変わったのは、3回目



海外選手10名を含む70選手が激しい競り合いを展開する。

の西向きレグ。昨日トップの廣川や、それを追いかける岩崎、成山、上山らが率いるトップ集団が低い高度で西風強風に捕まり集団ボムアウトしたのだ。

それにより大きなアドバンテージを得たのは昨日3位の小林、ゴールをすれば日本選手権者となる可能性が高い。中村や韓国選手と共に遠回りなコース取りながらも確実なゴールを目指す。

終盤は予報通り高層雲が張り出し、渋く強風となったが、確実なゴールを目指した中村、小林がギリギリでゴールにたどり着く。

しかし、そこにはなんとボムアウトしたと思われた昨日2位の岩崎が先にゴールしていた！

集団ボムアウトの中で唯一岩崎のみが生き残り、その後も高度を上げず複

雑なリッジ風を上手く使って誰の視界に入ることなくゴールまでたどり着いたのだ。2位に15分差をつけたダントツのトップゴールはお見事としか言えない。

その後も、Dクラスに乗る谷口や、昨日ゴールの橋本らがゴールに滑り込む。最終的に、渋い場面を上手くこなし強風を乗り越えた13名がゴールを果たした。

翌日は悪天候の為、これにて日本選手権者が決まった。

日本選手権者は、初日2位、2日目ダントツトップの岩崎拓夫！ 史上最多タイの2度目の日本選手権者に輝いた。女子日本選手権者は、成長著しい四方純！ 最終タスクでは、難しいコンディションの中、唯一の女子ゴール

を果たし実力も折り紙付き。日本選手権という大舞台で見事な結果を残した。

5日間のうち2タスクが成立した今大会。両日ともゴールを果たした者は僅か3名のみとテクニカルなコンディションとなったが、デイクオリティは2.0が付き、無事に日本選手権も成立、大成功な大会となった。

[総合]

1位	岩崎 拓夫	京 都	1964点
2位	小林 大晃	三 重	1823点
3位	橋本 耕一	埼 玉	1738点
4位	呉本 圭樹	長 野	1631点
5位	隈 秀敏	東 京	1523点
6位	稲見 祐二	愛 媛	1509点

[総合女子]

1位	四方 純	大 阪	1311点
2位	成山 奈緒	大 阪	1049点
3位	平木 啓子	静 岡	1040点

[スポーツクラス]

1位	中川 喜昭	茨 城	1142点
2位	氏田 敏彦	神奈川	848点
3位	濱田 革	北海道	766点
4位	村田 好彦	埼 玉	760点
5位	金本 知子	山 口	734点
6位	長島 信一	石 川	705点

日本選手権者から

岩崎 拓夫

大会関係者の皆様、そして選手の皆様ありがとうございました。

今年は海外選手の参加もあり、いつもに増してレベルの高い大会になりました。

1日目を好成績で終えて迎えた2日目。私にとっては2勝目がかかった状況でも、悩まずにアグレッシブな飛びが出来ました。

昨シーズンを振り返ると、韓国PWCでの入賞、スーパーファイナルで散々な結果と、良いことも悪いことも経験できました。メンタル面で成長出来たことが結果に繋がったと思います。

もちろん3度目の優勝も夢ではないと思うので、次のステージへ向かって挑みたいです。

四方 純

今回は美しい春の紀の川エリアを素晴らしいパイロットと飛べて、とてもとても楽しかったです。本大会に関わる全ての方に、この場をお借りしてお



総合入賞者。岩崎拓夫が二度目の日本選手権者に。



女子入賞者。四方純が中央に立つ。



スポーツクラス入賞者。優勝は中川喜昭。



紀の川を前に全員集合。「次はもっと上へ」の思いを胸に。

礼をさせていただきます。

北西風で飛ぶことが多い紀の川において、北東風の夕方（Task 1）、南西風（Task 2）の春コンディションと、初めてつくしでした。難しいコンディションを鮮やかに乗りこなしていくパイロットたちを見送りながら、コンディションの見切り、グライドパス、

アクセルワークなど、課題が明確になり、もっともっと練習したい！と痛切に感じました。

一方で、Task 2 で強い向かい風の中単独フライトになってしまっただけから、ローターの中を辛抱して稜線に戻り、風に出来るだけ逆らわずじっくり飛び、結果的に女子唯一のゴールが出

来ました。落ち着いて、風とグライダー、コンディションの移り変わりに集中できた所は良かったです。

引き続き、所属するロールアウトパラグライダーズスクールの教え通り、FRY HIGH、GO FASTを体現するパイロット目指して頑張ります。よろしくお願いいたします。

いつでも

どこでも

かんたん

今年度より募集方法が
インターネットへと変更になりました!!

JHF総合保障制度 2023年度募集スタート

JHF総合保障制度とは

任意でご加入いただくフライヤーのための傷害保険です。搭乗中はもちろん、お仕事中的お怪我也補償されます。また、地震、噴火またはこれらによる津波等の災害によるお怪我也対象です。

●ご注意●

フライヤー登録をすると自動加入されるのは、第三者賠償責任保険です。第三者賠償責任保険はご自身のお怪我は補償されません。本保障制度はあくまでも任意でご加入いただく必要がございます。
※ご加入にはフライヤー登録が有効である必要がありますので、必ずフライヤー登録の有効期限をご確認ください。

◆2023年度募集がスタートします

今年度で19年目を迎える本保障制度は、2023年3月1日現在、約830名の会員の皆様にご加入いただいております。

引き続き安全なフライトをお心がけいただき、事故なくお怪我なくフライトを楽しんでいただくことが大切です、万が一の時のための支えとして、本保障制度をご利用いただけますようお願い申し上げます。

◆第三者賠償責任保険とは

フライヤー登録時点で自動付帯される保険です。フライヤーが、フライト中に第三者に与えた物的・人的被害について法的範囲内で補償することを目

的としています（モーターハンググライダーは補償対象外です）。

万一事故が起きた際は、まずはJHF事務局へご連絡ください。JHFが休業の場合は、下記の『東京海上日動安心110番』にご連絡ください。

TEL.0120-720-110

◆JHF総合保障制度の特徴

- ・パラグライダー（含むモーターパラグライダー）搭乗中のお怪我、お仕事や日常生活のお怪我、および遭難の際にかかった捜索費用等の補償を致します。国内・国外どちらも対象です。
- ・地震、噴火またはこれらによる津波でのお怪我についても補償対象となります（この場合は救済者費用保険金につきましては対象となりませんのでご注意ください）。
- ・団体割引5%が適用されますので、保険料が割安です。

◆現在ご加入の皆様へ

更新のご案内を4月上旬に郵送させていただきます。大切なお知らせですので、書類到着後に必ず内容をご確認いただき、必要な場合は以下お手続きをお願い致します。

☐ プランに変更なし

自動継続のため、お手続き不要です。

☐ プランに変更あり

5月6日（土）までに下のQRコードよりインターネットでお手続きください。



☐ 口座変更

WEB手続きをご案内しますので、代理店宛にご連絡ください。

☐ ご解約

代理店宛にご連絡ください。

◆新規ご加入の皆様へ

ご加入をご希望される場合は、下のQRコードよりインターネットでお申込みください。



インターネット募集期間：

4月1日（土）～5月6日（土）

※期日を過ぎますと、お手続きができませんので、必ず期日内にお手続きください。

【保険に関するお問合せ先】

〈取扱代理店〉

（株）東京海上日動パートナーズTOKIO
池袋支店 池袋支社

〒170-6030

東京都豊島区東池袋3-1-1

サンシャイン60ビル30階

TEL.03-6907-4622

（平日9:00～17:00 土日祝除く）

FAX.03-6907-4623

Email : info.ikebukuro@tnpgrp.jp

〈引受保険会社〉

東京海上日動火災保険（株）

航空宇宙・旅行産業部 航空営業課

〒100-8107

東京都千代田区大手町1-5-1

大手町ファーストスクエアWEST 9階

TEL.03-3285-1726

■JHFインスタ：ショート映像募集

JHF公式Instagramを始めました（下のQRコードから）。

広報活動のひとつとして、パラグライダー、ハンググライダーを知らない方に興味を持ってもらえるような、気持ちよさそう！飛んでみたい！というショート映像を紹介していきます。

つきましては、会員の皆さまにも、楽しさが伝わる映像のご提供をお願いします。画像も可です。

ハンググライダーまたはパラグライダーでのテイクオフ、フライト、旋回、ランディング等をしている15秒～60秒程度の動画をお願いします。あなたやお仲間の動画をぜひ！ただし一般の人が見て危険に感じるようなものはNGです。詳細はJHFウェブサイトをご覧ください。



■お名前・ご住所が変わったら 早めにお知らせください

発行のたびに宛先不明で戻ってくるJHFレポートが少なくありません。

JHFレポートには、フライヤー会員の皆さまにぜひ読んでいただきたい情報を掲載しています。氏名や住所に変更があったら、お手数ですが早めにメールかFAXで事務局にお知らせください。お知らせいただきたいことは次のとおりです。

JHFフォトコンテスト開催 お気軽にご応募ください！

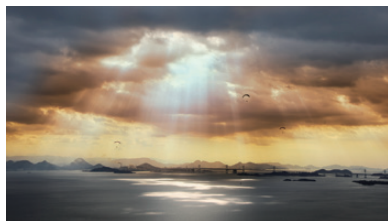
2023年度もJHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテストを開催します。ハンググライダーやパラグライダーの写真ができるだけ多くの人々の目に触れることにより、このスポーツの認知度が上がり、より一層の普及のために役立つと考え、2010年から開催し、今回で10回目を数えます。

ハンググライディング・パラグライディングの醍醐味や楽しさを伝えられる作品を募集します。お気軽にご応募ください。データでも応募可

能です。

担当者一同、楽しみにお待ちしております。

募集要項等はJHFウェブサイトの特ピックスで後日お知らせします。応募締切日は2023年9月5日（火）です。



第9回最優秀賞「光の射す方へ」深野達也さん作品

上空利用可能デジタル無線機使用のお勧め

2024年（令和6年）11月30日にアナログ式簡易無線機の運用が終了することに備えて、JHFではハンググライダーやパラグライダーのフライト中に使用する無線機として「簡易無線登録局」対応のデジタル無線機の使用を推奨しています。

上空利用5チャンネルを搭載、デジタル方式の音声なので、混信もすくなくクリヤーで聞き取りやすくなっています。現在の対応機種はSTANDARD製のVX-291S、VXD450S、VXD1S、ICOM製のIC-DPR30、IC-DPR4、KENWOOD製のTPZ-D510です。

JHF賛助会員（JHFウェブサイトにもバナーを掲載）からも購入するこ

とができます。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル無線機を15台保有し、フライヤー会員に貸し出しをしています。ご希望の方はJHFウェブサイトの「JHFのご案内」をご覧ください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方は、無線機の登録手続きを済ませ利用料を納めているか、ご確認ください。登録をしないまま無線機を使用すると、不法無線局として処罰の対象になります（1年以下の懲役または100万円以下の罰金）。お忘れのないようお願いします。

- ・フライヤー会員番号
- ・お名前（氏名変更の場合は新旧名）
- ・新しいご住所
- ・連絡先電話番号
- ・メールアドレス

もしフライトのお仲間に転居された方や、お名前が変わった方がいたら「JHFに変更の連絡をした？」と声をかけていただけると、たいへん助かります。

■各種申し込みやお知らせ お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人

日本ハング・パラグライディング連盟
〒114-0015 東京都北区中里1-1-301
TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089

E-mail: info@jhf.hangpara.or.jp
https://jhf.hangpara.or.jp

事務局業務の効率化のため、ご連絡はできるだけメールでお願いします。回答が通常より遅れることがありますが、順次対応をいたしますのでご理解ください。

*このJHFレポートには、賛助会員からのお知らせを、神奈川県在住の方には県連盟からのお知らせも同封しています。

被災地復興 応援プロジェクト 「空はひとつ」

東日本大震災被災地への義援金を引き続き募っています。

◇義援金振込先

三菱UFJ銀行（銀行コード0005）

巣鴨支店（店番号770）

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

JHFレポート241号

発行日：2023年（令和5年）4月30日

発行：公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）

編集：JHF事務局

印刷：株式会社アイセレクト